

# 第89回全道メーデー大会開催

－200団体、5,000名結集－

満開の桜に降り注ぐ暖かな日差しの中、第89回全道メーデーが開催された。

札幌大通公園8丁目広場には、組合員など5,000人（200団体）が集結し（全道では133地域 50,000人）労働者の祭典が祝われた。

本年も式典開始前には、仮装コンクール、お楽しみ抽選会などが行われ、番号が呼ばれるたびに響めきが起き、当選者が決まると多くの落胆の声に混じり喜びの声が上がり、松島温泉ご招待は、全農林と情報労連の組合員が当選し喜びにあふれていた。

式典では、まず大会実行委員長である連合北海道出村会長が、実行委員会を代表して挨拶を行った。



挨拶冒頭、出村会長は「憲法をねじ曲げ、強行採決を繰り返し、隠蔽、改ざん、抑圧、権力乱用と安倍内閣は最も醜い姿を露呈している」と安倍政権を批判し、「立憲主義、民主主義の危機であり、安倍内閣は総辞職、即刻退陣すべき」と訴え、「明年予定されている知事選を頂点とする統一地方選挙と参議院議員選挙の勝利を」参加者と誓い合った。

次に、2018春季生活闘争についてふれ、春闘の柱の一つである「働き方改革」については、「高度プロフェナル制度を撤回させ、長時間労働の是正と同一労働同一賃金を柱とした内容で法案を成立させる必要がある」今後は「立憲民主党、民進党、希望の党で作成した労働者保護を中心とした対案を軸にして、政府案の修正をはかっていくことが求められる」とした。

また、教員の長時間労働の取り組みやブラック一層の取り組みが重要で、「働き方改革は、第一に『命と健康を守るもの』でなければならない」と訴え、最後に「平和で安心して暮らせる社会、額に汗して働くものが報われる社会、誰もが希望が持てる社会をめざして、引き続き運動を進めていく」と、参加者に力強く宣言した。

メーデーはこの後、来賓の阿部北海道副知事、秋元札幌市長、そして連合北海道国会議員団会議会長の荒井衆議院議員から挨拶をいただき、メーデー宣言・特別決議を満場一致で確認して、札幌市内でのアピール行動を行った。